

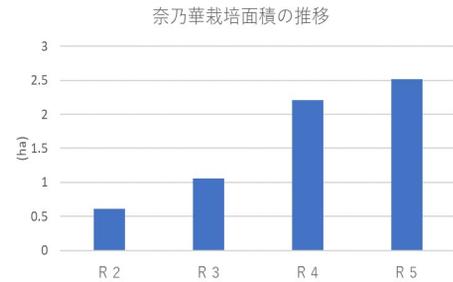
概要

- 県の主要品種である‘アスカルビー’は春先の品質低下が問題となっていた。そこで、良食味で果皮が硬く、棚持ちの良い‘奈乃華’を研究機関で育成し、品種登録出願。
- ‘奈乃華’導入にあたって、栽培上の課題である心止まりの多発原因について現地調査を実施。研究と連携を行い、‘奈乃華’の栽培ポイントをまとめた指導資料を作成。
- その結果、‘奈乃華’の栽培面積が増加し、県内2カ所で地区共計が始まった。

具体的な成果

1. ‘奈乃華’栽培面積の増加

- 新たな生産者や栽培面積を増加させた生産者により、生産量が増加（R4→R5）
栽培面積 2.2ha → 2.5ha



2. 栽培上の課題の抽出と対応

- ‘奈乃華’栽培上の注意点と対策をまとめた指導資料を作成。
- 病害対策として、地区網室等を活用した温湯消毒器の共同利用体制を構築（R4→R5）
温湯消毒器の共同利用 0カ所→2カ所



3. 出荷体制の構築

- 令和5年度より、県内2カ所で地区共計が始まった。（R4→R5）
- ①市場への販売額 43百万 → 60百万
- ②市場への出荷量 40t → 50t

普及指導員の活動

令和5年

- ‘奈乃華’の生産拡大にかかる補助事業の推進
- 心止まり発生が多いため、県全域で心止まりの発生状況及び管理履歴を調査。研究機関での試験、調査と併せて対応方針を決定。これまでの研究成果等を元に、‘奈乃華’栽培上の注意点と対策をまとめた指導資料を作成。
- イチゴ親苗供給の生産安定のため、巡回指導及び供給体制の検討会を開催。また、地区網室等を活用した温湯消毒器の導入促進

普及指導員だからできたこと

- ・専門技術を持ち、農家との信頼関係を築いている普及指導員だからこそ、新品種である‘奈乃華’の導入を提案し、栽培方法の指導や課題の抽出及び対応が可能。
- ・日頃から連携している先進農業者、JA、研究機関、県行政等の関係者を結びつけ、‘奈乃華’の産地育成に向けた取組を進める事が出来た。

イチゴ新品種‘奈乃華’の産地育成

活動期間：令和5年度～継続

1. 取組の背景

県の主要品種である‘アスカルビー’は春先の品質低下が問題となっていた。そこで、良食味で果皮が硬く、棚持ちの良い‘奈乃華’を県農業研究開発センターが育成。令和2年に品種登録出願して普及に取り組み始めたが、心止まりの多発、病害に弱い等、栽培上の課題も明らかとなってきた。そこで、これら栽培上の課題を研究と連携しながら現地でも対策を行っていくとともに、出荷販売の体制づくりをすすめて、‘奈乃華’の産地育成に取り組む。

2. 活動内容（詳細）

○‘奈乃華’の栽培面積の拡大

県行政が‘奈乃華’の生産拡大にかかる補助事業を県単で実施。事業をきっかけとした新規取組者の掘り起こしや、既栽培者への面積拡大の働きかけに普及が取り組んだ。

○栽培上の課題の抽出と対応

‘奈乃華’は品種特性として心止まりの発生が多いため、県全域で心止まりの発生状況及び管理履歴の調査を行い、研究機関での試験・調査と合わせて検討会を開催し、今後の指導方針を決定した。

また、‘奈乃華’の他の栽培上の課題についても議論を行い、これまでの研究成果等を元に、注意点と対策を整理した。

○親苗、苗の生産安定

‘奈乃華’は炭そ病等、病害に弱く、無病の親苗を配布することが非常に重要である。親苗の生産安定のため、県内全ての地区網室を年2回巡回し、病害虫や管理状況の点検、改善指導をおこなった。

また、資材からの病害感染リスクを下げるため、地区網室等を活用した温湯消毒器の共同利用体制構築を推進し、導入経費の低コスト化、利用者数の増加を図った。

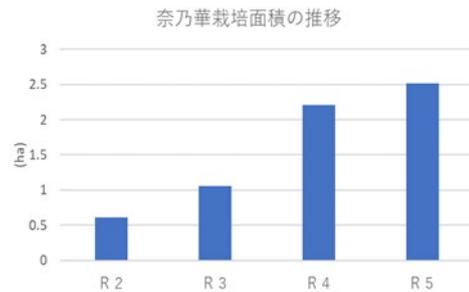
○出荷体制の構築

J Aと出荷体制について検討を行った結果、地区共計を始めることとし、栽培面積の大きな生産者がまとまる地域を中心にモデル的に、J A主導で取り組んだ。

3. 具体的な成果（詳細）

○‘奈乃華’の栽培面積増加

品種ごとの特徴を説明し、普及に努めた結果、新たな生産者や栽培面積を増加させた生産者の確保につながり、2.2haであった栽培面積が令和5年度には2.5haに増加した。



○栽培上の課題の抽出と対応

研究機関での研究結果や現場でのとりくみ事例等を参考に、‘奈乃華’を栽培する上の注意点と対策をまとめた指導資料を作成。県内で共通して指導できるように、研修資料を共有した。

また、病害対策技術として、地区網室を活用した温湯消毒器の共同利用が2カ所始まった。



○出荷体制の構築

これまでの販売は直売所や個人出荷によるものが多かったが、令和5年度より県内2カ所で地区単位での共同販売をモデル的に開始したことで、市場への出荷量が前年比125%となり、単価も向上した。

4. 農家等からの評価・コメント（天理市〇氏）

‘奈乃華’は果皮が硬く、春先も取り扱いがしやすい良い品種。今後に期待をしている。出荷をもっとまとめられるようにしていきたい。‘奈乃華’の栽培マニュアルがあれば取り組みやすい。

5. 普及指導員のコメント（農業水産振興課・主任主査・藤田奈都）

研究機関や行政等関係機関と連携しながら推進することで、産地化を効果的に進める事ができている。今後も農家所得の向上につながるよう、‘奈乃華’向け栽培のコツを整理し普及に取り組みたい。

6. 現状・今後の展開等

新しい品種であるため、栽培上未だ解明できていない課題もあり、今後とも研究機関と連携しながら課題解決を図りたい。また、単価向上に向けた販売戦略についても検討を行っていく。